



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

奨学金に思う

副会長（中国地区） 中川 俊隆

1. はじめに

私は、某東証プライム上場企業が出資設立する財団が運営する奨学金の奨学生選考委員を財団設立以来務めています。給付型の奨学金であることは、言うまでもありません。

先日、本年度の面接選考を終えたところであります。残念ながらコロナ禍のこの時期、対面での選考はかなわず、リモートでの面接がここ三年続いています。

選考にあたって、書類等を通して受験してくる学生の経済状況を知るのですが、思わず考え込んでしまう例に出会うことがあります。

2. 奨学金の返済

日本の奨学金制度は、1943年、大日本育英会が創設されたことに始まります。

給付か貸与かの議論があった

ようですが「無利子貸与」型でスタートしました。

1953年、日本育英会に名称が変更され、2004年には日本学生支援機構に事業が引継がれ、現在に至っています。

受験生の中には、無利子の第1種奨学金と有利子の第2種奨学金を目いっぱい受給して、4年間の借入額が90万円近くになる者もいます。

卒業後、返済が求められますが、「奨学金地獄」といわれる実態が容易に想像されます。分かっていながらそうせざるを得ない状況があるようです。

「借りたものを返すのが当然だ。」と言うのは簡単ですが、考えさせられます。

3. 私と奨学金

私は高校3年間、大学4年間、計7年間奨学金を受給しました。大学4年間の奨学金は、卒業

後一定期間教職に就けば返還が免れるという「特別貸与返還免除制度」（1984年廃止）により返還を免れています。

高校3年間の奨学金は、教職に就いた後、定期的に返済しました。完済の通知を受けたときは、何とも言えない達成感を味わったことを鮮明に覚えています。

4. 奨学生からの近況報告
採用をした奨学生からは、財団を通して、年間3回の現況報告が届きます。

大学での研究生生活や課外活動などの様子が、眩しいような文章で綴られています。

博士号の取得を目指して研究をしている者、海外での研究を目指して準備を進めている者、中には、結婚をして子育てと研究を両立させている者等々。

奨学金の制度が、卒業後の生活を追い詰めたりすることのないような制度、すべての奨学金が給付型の奨学金になることを心より願っています。

（参考文献）

岩重儀春著「奨学金地獄」

令和4年度の『要望書』を 文部科学省・厚生労働省・総務省の各大臣に提出

令和4年8月2日、全連退の田中昭光総務部長、村山忠幸広報部長、橋本誠司教育課題委員長、川井仁事務局長の4名で、文部科学省を訪問し、伯井美徳初等中等教育局長に要望書を提出した。（今年は副会長会が中止となり、一部の本部役員が持参した）

末松信介文部科学大臣への 「要望書」

我が国は今、人々の命と暮らしを守るため、新型コロナウイルスの感染防止・ワクチン接種と社会・経済活動再生の渦中にあり、全国各地の学校・教職員は、教育活動のさまざまな制限・中止等の中で頑張っている子供たちの学習・生活の遅れや不安を解消し、全ての子供にきめ細かい指導を行き届かせようと取り組んでいます。



教育現場への迅速かつ人的・物的両面からの大胆な財政支援によって子供一人一人の学びを保障し、学校教育の充実・

振興を図っていくことが喫緊の課題です。

全国連合退職校長会は、会員八万五千余名の総意として、左記事項を強く要望いたします。



子供一人一人の学びの保証 に関する要望

一 児童生徒、教職員の新型コロナウイルス感染防止

各学校・園の教職員に対するワクチン接種体制を整備するとともに、換気・空調設備や衛生管理器具等を完備し、安全な学習・生活の場を確保すること。

二 児童生徒の学習・生活の遅れの補完

コロナ禍の学校生活の不安や学習の遅れを解消するため、児童生徒のメンタルケアに務める人材の採用拡充を図ること。

三 今後の臨時休校等における学習の機会の確保

「GIGAスクール構想」の実現に向けて「一人一台」学習端末機周辺のICT環境を整備するとともに、各家庭における「オンライン学習」に有効なデジタル教材や学習指導の在り方などについて実証研究を進めること。

学校教育の充実・振興に関する要望

一 教育の機会均等と教育水準

の維持・向上

義務教育制度の根幹を為す義務標準法、義務教育費国庫負担制度、教科書無償給与制度等を堅持するとともに、国庫負担率二分の一への早期復元を図ること。

二 令和の日本型学校教育の推進

- (1) 小学校高学年に教科担任制を導入する第八次教職員定数改善計画を策定し、「英語」をはじめ、各教科の専任教員を配置すること。
- (2) 子供へのきめ細かな指導により「個別最適な学び」を実現するため、中学校も三十五人の少人数学級に引き下げること。
- (3) 学習指導要領の基本理念である「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等の教員研修の充実を図ること。
- (4) デジタル教科書の有効性や使用の在り方等を慎重に検証するとともに、紙の教科書との併用を基本とし、両方を教科書無償給与措置

の対象とすること。

- (5) 発達障害等、特別な支援を必要とする児童生徒の多様な学びの場を一層充実・整備するとともに、特別支援学校設置基準に拠る教室等の整備を促進すること。

三 「学校における働き方改革」の実現

スクールカウンセラーや部活動指導員、ICT支援等の専門スタッフの配置により「チーム学校」を充実し、教員の長時間勤務の解消、勤務環境の適正化を図ること。

四 優秀な人材の確保、待遇の改善

- (1) 人材確保法を堅持するとともに、教員不足を解消するため、教職の魅力の向上策や待遇の改善、社会人の登用促進など、教員志望者の裾野を広げ、適性のある優秀な人材確保の施策を講ずること。

(2) 専門性と実践的指導力を兼ね備えた「教員養成課程」を創出するとともに、教員免許の取得・採用・研修制度の改善・充実を図る

こと。

- (3) 教職員・校長等管理職の給与等に関する特別措置法の改正、定年制改正に伴う退職後の再雇用等の拡充を図ること。

(4) 退職校園長の有識者会議等への登用、春秋の叙勲者数の増加等の施策を講ずること。

五

被災地域の復興・教育再生未だ復興途上にある東日本大震災・原発事故をはじめ、全国各地で続発している地震・豪雨等の自然災害で被災された地域の復興・教育再生のため、迅速かつ強力に支援すること。

六

日本の教育の振興現在、全国三十八都道府県、二百十四市区町村に制定されている「教育の日」を拡充し、国民こぞって教育の在り方を考え、教育の振興を期する国民の祝日として、「教育の日」を制定すること。

○伯井美德文部科学省初等中等教育局長のお話

・新型コロナウイルス関係では、学校が感染症対策を徹底する

ことで、子供たちの学びを止めないことを大前提に進めている。

- ・引き続き感染防止のための支援を充実するとともに、学習機会の確保に取り組んでいく。
- ・タブレット端末を活用した学習機会の確保は全国の学校で行われている。
- ・カウンセリング業務の強化とオンラインシステムの活用で、不登校生徒対策を考えている。
- ・教員の人材確保には、文部科学省としてはありとあらゆる手立てを講じていこうと考えている。

・この要望書の内容は、我々の方向性と同じだと思う。引き続きよろしく願いたい。

《厚生労働省には、

要望書を郵送した》

後藤茂之厚生労働大臣への

「要望書」(前文略)

一 高齢者の生活の安定を図るため、デフレ経済下での「マクロ経済スライド」の実施は行わないことを要望する。

二 高齢者医療制度の見直しに当たり、健康保険料・介護保険料等の負担が過重にならないよう配慮されたい。

いよう、高齢者の生活安定に配慮されたい。

三 長寿社会で働く高齢者の年金については、とくに六十歳代の在職老齢年金の支給停止処分を緩和するよう配慮されたい。

四 全ての世代が将来にわたって安心できる年金・医療・介護等の社会保障制度の改革に取り組んでいただきたい。

《総務省には川井事務局長が

要望書を持参し、提出した》

金子恭之総務大臣への

「要望書」(前文略)

一 共済年金と厚生年金の一元化に伴い、職域加算を保障する「年金払い退職給付」が実施されたが、今後も退職教職員の生活安定の施策を強く要望する。

二 長寿社会で働く高齢者の年金については、勤労意欲を損なわないよう在職老齢年金の支給停止基準を緩和するよう配慮されたい。

三 高齢者の生活安定を堅持するため、年金受給者への課税増等による税負担が過重にならないよう配慮されたい。

全国校園長会長より



日本の未来を支えるために

全国国公立幼稚園・
こども園長会

会長 箕輪恵美

本会は「日本の幼児教育の振興と発展」を目的として昭和二十五年に設立され、会員園では幼稚園教育要領等に則ったスタンダードな幼児教育を実践してきました。そのため、国公立園は地域の幼児教育の核となる役割を果たし、地域の幼児教育の質を向上させるために必要な指導者の輩出も担ってきました。

しかし、少子化及び無償化の影響で園児数減による園の統廃合が進み、正規教諭の新規採用が途絶える、こども園化により園長が幼稚園出身ではない者になる、幼稚園が教育委員会の管轄から外れる、ということが相

次ぎ、国公立園の存続や園長同志の地域を超えたつながりの維持が危機的状況にあります。

しかし、日本の未来は幼児期からの教育にかかっていることを踏まえ、本会では会員園長に呼び掛け、各園で中央教育審議会の答申にある「個別最適な学び」「協働的な学び」の裏付けとなる実践を工夫すること、幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会から示された「架け橋プログラム」をモデル地域以外の園でも積極的に取り組むことを推進しているところです。

また、国公立各園で増加している園児の多様性に対応するための正規教諭の加配、より多くのご家庭に国公立園を選んでいただくために必要な三年保育の拡充、今の時代に必要不可欠なICT環境の全園整備を関係各所に働き掛け、実現を図ることで、各園の教育の質向上及び各園の存続に寄与する所存です。

全国連合退職校長会の皆様には、学校教育のはじまりである幼児教育の発展、それを支える国公立園の存続に、一層のご支援をお願い申し上げます。

小学校教育の一層の充実を



全国連合小学校長会

会長 大字弘一郎

日頃より、全国連合退職校長会の皆様には、本会の活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的な事態に直面してから、2年以上が経過しました。未だに収束は見通せませんが、どのような状況であっても、学校は全ての子供たちが安心して楽しく通える魅力的な場所でなければならぬと考えています。

新型コロナウイルス感染症は、教育界にとって遅々として進まなかった大きな課題を一気に改善へと向かわせました。少人数

学級の実現と教育のICT化の推進です。昨年3月に義務標準法の改正がなされ、小学校全学年における35人学級が実現することとなりました。義務標準法の改正は、じつに40年ぶりです。

また、GIGAスクール構想の前倒しにより、ICTを活用した教育が本格的に進み始めました。日本の教育が大きく変わる転換点となったのが、この2年間であると言えます。

しかし、少人数学級もGIGAスクールも手段であって、目的ではありません。与えられた環境を最大限に活用し、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことが目的であり、私たち校長の使命です。これからも教職員と力を合わせ、保護者や地域、関係機関等とも十分に連携を図りながら、よりよい日本の小学校教育を創ってまいります。

全国連合退職校長会におかれましても、小学校教育のより一層の充実のために、必要な条件整備が進むようにお力添えをいただきますよう、よろしくお願いたします。



北海道地区

期日 5月20日

会場 ホテルライフオーブ

札幌

出席者 54名

北海道地区は単一退職校長会のため、他地区のような「地区連絡協議会」は設けていない。

それに替わるものが全道34支部の代表者が集まる「定期総会」と、10月に開催する「支部代表者会」である。

ここでは5月20日に開催した「第58回定期総会」の概要について報告する。

国歌斉唱・会長挨拶のあと、ご来賓を代表して北海道教育庁唐川智幸学校教育監・札幌市教育委員会 長谷川正人学校教育部長・全連退 村山忠幸常任理事からの祝辞をいただいた。その後、議長に札幌手稲支部 高橋謙一郎支部長を選出して以下の項目について報告・協議に入った。

一 報告事項

- 令和3年度活動・事業報告
- 令和3年度一般会計・特別積立金決算報告・監査報告
- 「北海道教育の日」道民運動推進協議会の活動

二 協議事項

- 令和4年度活動方針案・事業計画案
- 令和4年度一般会計予算案・特別積立金会計予算案
- 総会宣言決議案

三 寿詞・賀詞の贈呈

四 感謝状の贈呈

今年は、「コロナ禍でも、会員同士のつながりを大切にしたい」と考え、感染防止対策として、参加人数を少なくし、3年ぶりに対面での開催が実現した。（懇親会は中止）

黒坂会長が「会員の減少」を挨拶の中で取り上げた。組織に在籍することの良さを感じ、長く在籍してもらえようような取組を、どう進めていくかは、本会の大きな課題である。

令和4年度 常任理事、部員、委員等役割分担一覧
(順不同、敬称略)

会 長 入 子 祐 三

◎常任理事

部・委員会	部長・委員長	部 員 ・ 委 員			
総 務 部	◎田中 昭光	◎荻原 武雄 ◎橋本 誠司	◎岡野 仁司 ◎藤崎 武利	◎村山 忠幸	◎三上 裕三
教 育 振 興 部	◎荻原 武雄	河原 敏子	巖 正子	馬場 喜久雄	
生 涯 福 祉 部	◎岡野 仁司	荒井 忠夫	鴻田 好道	川名 葉子	
広 報 部	◎村山 忠幸	阿部 邦幸	永井 洋子	久富 美智子	
会 計 部	◎三上 裕三	◎新沼 隆三（栃木） 川和 誠一			
教育課題委員会	◎橋本 誠司	梅村 勝	堀内 比佐子		
事 業 委 員 会	◎藤崎 武利	齋藤 とも子	新藤 久典		
事 務 局	事務局長：川井 仁 佐々木 多美子				



双葉の灯を消さない

福島県公立学校退職校長会

会長 佐藤 俊市郎

本会は県下16支部に2667名（免除会員含）が、「福利厚生（免除会員含）」が、「福利厚生の向上」と「学校教育進展への寄与」を目標にコロナ禍にありながらも、主体的に工夫して活動している。

県の主な活動としては、
○県研究大会（総会・研修）は、コロナ感染拡大により大会要項の全会員配布での代替え実施

○県教育長並びに市町村首長及び教育長への要望（現職小・中・高校長会との連携を基に）

○年4回の広報誌「松風」の発刊及び本年度からホームページ開設（情報の共有化）

○評議員会、支部長会、理事会等の開催（各支部との連携）

等を主催・主管している。

本会の課題としては、会員数の減少と加入拡大への対応等々あるが、特に東日本大震災・原発事故の発生後、11年が経った現在でも双葉支部の会員約100名が未だ誰一人として帰郷出来ないでいることである。これは、放射能汚染により安心して平常の生活が出来る環境が十分に整っていないことに起因していると思われる。支部会員は県内外に避難している。

郡山市湖南に避難している支部長さんを中心に「双葉の灯は消さない」を合い言葉に互いに連絡し合うなど、支部活動を続けている。

今日、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻等の様々な社会現象や酷暑の中での供給電力の不足、物価の高騰等が続き、電力確保のために「原発の再稼働」が叫ばれている。

全国の皆さんには、今後共「原発事故」の災害と本県の現

状について思慮頂くとともに、本会の「双葉の灯を消さない」（県のスローガン）について、御理解と御支援を切に願いたい。

本年度総会より

京都府連台退職校長会

会長 富田 剛史

本年度は、コロナ禍ではありますが、感染症対策に十分注意を払い、懇親会を取りやめ、7月2日に舞鶴市で総会を実施いたしました。

コロナ禍に加えて猛暑の中でしたが、100余名の参加のもとに、北部で総会が実施できたことは、府連退の組織にとって有意義でした。（総会は、府内3ブロック、北・中・南の回り持ちで開催している。）

舞鶴市退職校長会には、周到で丁寧な事前準備に加え、当日もきめ細かい運営をしていたいただきました。山下美晴舞鶴産業振興部長・舞鶴引揚記念館前館長のご講演「引き揚げの記憶を

世界へ未来へ」も、舞鶴市にふさわしい今の時期に大切な素晴らしい内容で、私たちに多くのご示唆をいただきました。

また、公務ご多忙の中、多々見舞鶴市長・奥水舞鶴市教育長にご隣席賜りました。多々見舞鶴市長には、ご祝辞もいただきました。

今後も、コロナ禍の中、状況を総合的に判断して運営していきたいと考えています。府連退として、コロナ禍ではありませんが、無理しないで出来ることを、何かプラスに活動できたらと考えています。

コロナ禍の中での社会経済活動や教育の在り方、地球温暖化等にもみられる人間による自然環境の変化、生活の中での課題は山積みです。

人の命を軽んずるような世界情勢が続いています。教育の大切さ、人権教育の大切さが普遍的に重要視されていると思います。我々のできることを実践し

ていきましよう。

コロナ禍の中、まだまだ予断を許さない状況が続いています。皆様方には、なお一層のご健康にご留意なさいますようお願いいたします。

広島市退職校長会の取組

広島市退職校長会

会長 光原 達夫

広島市退職校長会は、平成29年10月30日に広島県退職校長会より分離独立し、令和2年に発足30周年を迎えた。

この間、多くの先達による本会へのご尽力により、活動を続ける事が出来た。

設立時、450名であった本会は、令和4年度には、総会員数586名となった。その内訳は、88歳未満の会費会員486名、88歳以上の終身会員100名である。近年高齢化に伴い、終身会員の占める割合が少し増加しつつある。新規退職校長の入会率は60%前後である。令和元年度より退職校長

会への新規参加を促すため、年度末時期の現職校長会へ出向いて、活動の紹介と、新入会の勧誘を行っている。

活動は、叙勲、広報、福祉、研修、教育支援の5つの委員会と広島市内8区を9の地区に分割しそれぞれの地区活動を中心としている。

現会員、新入会員が入会して良かったと思う活動を考え工夫する事を課題として、各区代表者会では、今まで以上に活動上の悩みや良いアイデアを、互いに交流することで、活動の質の向上と活性化を目指している。

また、一昨年よりコロナ禍がおき、高齢者も多い本会では、地区会や委員会が中止となる事態も起きている。そのままでは、会議も出来ず活動も低下する事から、令和2年度より、12名の本部役員会を皮切りにZOOMを用いた会議も行える体制を作った。令和4年度は、これに加えて14名の代表者会に広げる為、

専門業者による講習会を開き、8月の会はリモート会議で行う取り組みを行った。

今後も、現状に満足する事なく、様々な局面で常に前向きに取り組みたいと考えている。

3年ぶりに・・・

島根県退職校長園長会

会長 塩川 寛

会長を務めて今年度で3年目となります。この間、まさに「コロナ対応」に明け暮れた日々でした。

令和2年度は、ほとんどの会議・事業が中止・延期、書面表決となりましたが、今年度は、最高議決機関である「総会」を参加人数や日程等を縮小し、コロナ対策を最大限講じた上で3年ぶりに開催することができました。改めて対面での会議の重要性を実感しました。

また、3年ぶりに「全連退総会」も開催され、延期となっていた「中国地区退職校長会連絡

協議会鳥取大会」や「本県研修会」も開催予定です。

本会や各支部で予定されている今年度の事業等も「with corona」の下、今後も感染状況は不透明ですが、今年度の本会の流行語が「3年ぶりに開催」となることを期待したいものです。

こうしたコロナ禍にあつて、本会の今年度の活動重点の一つとして、「声をかけ合うなど会員の心を繋ぐ活動を積極的に行う」を挙げています。なかなか対面で会えない状況ではありますが、すでに各支部においては様々な工夫をしながら、心を繋ぐ活動を行っていたかと思います。こんな時だからこそ、本会の存在感や所属意識が問われると考えています。

また、今年度の「全連退総会」でも話題になった「教員不足への対応」が本県でも喫緊の課題となっており、今年2月、各支部に協力依頼の文書を本会

として発出しました。今後とも学校現場の現状を踏まえ、本会として、時宜を得た活動、教育振興に寄与していきたいと考えています。

コロナに負けず

記念総会開催

大阪教育みおつくし会

会長 稲葉 廣

当会の活動はコロナ禍により大きな影響を受け、令和2年度及び3年度の総会は中止のやむなきに至りました。また、バスツアーをはじめとする各種の交流活動も中止や実施形態の変更を余儀なくされました。

そのような中で今春には感染者数もようやく減少傾向となり、役員一同「必ず6月に60周年記念総会を開催するぞ」との強い意気込みの下、準備に取りかかりました。

残念ながら最終的に来賓の招待や総会後の懇親会の開催は断

念せざるを得ず、会務や会計の諸手続きと記念講演のみのシンブルな総会になりました。

記念講演は「どうなる大阪の教育―この10年を振り返って―」と題して、橋下徹大阪市長（平成23年12月～平成27年12月）の就任に伴う、大阪の教育のいわば「激動期」に大阪市教育委員会教育長を務められた長井哲郎氏（平成20年4月～平成26年3月）よりお話を頂きました。既存の教育委員会制度のあり方に批判的な市長と変革に慎重な学校園の間で、種々苦労されたのですが、今後のわが国の教育にとっても大変示唆に富む内容でした。

記念総会を開催できたことは活動再開の一步となるとともに総会開催に関するノウハウの継承も行えたので、今後は諸行事・諸活動の再開に傾注いたします。

魅力を感じられる組織を

宮崎県退職校長会

会長 押川 政昭

新型コロナウイルス感染拡大の影響で退職校長会創立五十周年事業、総会等、全ての行事を中止しなければならぬ状況で、令和四年度を迎えた。

本会は、県下十一支部の各退職校長会を組織基盤として活動している。地域の特色を生かして各支部が、地域に根ざしながら独自の活動を推進して、支部の親睦を深め、地域にも貢献している。

今後も新型コロナウイルス感染状況は不透明で交流等が困難な状況が予想される。この機会をプラスに考え、年二回発行している「芳馨」を通して、各支部の特性等をより発信させる工夫を考えている。各支部の仲間達の親睦や地域に寄り添った活動等、支部の良さを引き出す機会ともしたい。

さらに会員相互の親睦を深めた魅力ある組織を目指して、コロナ禍で縮小された会議の中で、各支部の構想や思いを理事会、事務局長会、総務会など、あらゆる場で会員相互の情報交換に努めている。また、各支部から特色ある活動を申請されたら、本部より各支部へ助成金を支給している。

今後予想される定年制延長、学校統廃合による校長数の減少や年金制度等で、課題が多々出ることが予想される。今後は、現職校長会、教育委員会とより密に連絡を取り合い、予想される課題を検討し、会員数の維持または増員を図りたい。

「今まで歩いてきた道、これから歩いて行く道」という言葉のとおり、これからも会員相互の深い絆と魅力ある組織づくりを目指すとともに、現職校長会や教育委員会とのより一層の親睦を深め、信頼感と存在感を高めようと考えている。

全国校園長会との連絡会

日時 6月22日(水) 17時～18時30分
会場 全連退事務局
出席者(敬称略)

◎全国国公立幼稚園・こども園長会 会計部長 森山未来

◎全国連合小学校長会 会長 大字弘一郎

◎全日本中学校長会 事業部長 竹ノ内 勝

◎全国高等学校長協会、全国特別支援学校長会は都合により欠席

◎全連退 各部長・委員長・事務局長

○田中昭光総務部長挨拶 本日 一方、各区市町村や各都道府県は、入子祐三会長のご挨拶いたすところは、公立幼稚園やこども園が欠席のため、田中が代わって申し上げます。皆様からの現場の状況を話していただいて、我々の今後の活動に生かしていきます。よろしくお願いします。

◎森山(国公幼会計部長) こども家庭庁の創設にあたり、幼児期の教育は文部科学省が引き続き管轄することが示されました。このことは、幼児期の教育が今後、教育として守られる上で大きな意義があると考えます。

児の豊かな直接体験が基本となりますが、それを補完するためのものであります。せめて教員にタブレット端末が届くことを訴えていきます。

令和3年度の調査では、全国の約3割の幼稚園が2年保育や1年保育です。共働きの家庭が増えている中で、3年保育の充実が望まれます。

多様性に対応するための正規教諭の新たな配置を進めてほしいのです。特別な支援を要する子供や外国籍の子供が増えてきています。支援には専門性が必ずやなので、その幼児たちに対応できる正規教諭を加配してほしい。

資質が高く志のある教員が離職せずに働き続けることができ、環境整備と人材配置も要望していきます。育児休暇や介護休暇を希望する教員のために、フリーの正規教諭の加配が有効だと考えます。

○橋本誠司教育課題委員長 こ

ども家庭庁ができる中で、国公幼の園長会は、どう対応していくのですか。

◎森山(国公幼) 今まで文科省と一緒に連携しながら進めてきた公立幼稚園の使命があり、蓄積があります。そこは守ってきたい。

○橋本 幼稚園教員の受験者の傾向は。

◎森山(国公幼) 東京都では受験倍率は大変高いです。優秀な方たちが現場に入ってきています。将来も仕事として続けたいと思った時に公立幼稚園の教員にという希望は高いです。

◎大字(全連小) 全国で25年間で約5000校少なくなりまして。毎年200校ずつ確実に減っています。

深刻な教員不足であることは間違いありません。すべての校種の中で小学校が一番厳しい状況にあります。東京都は正規教員は昨年度の調査で104%の充足率です。今年度は現時点で50校



近い未配置校があり、東京都の人事部だけでなく指導部も総出で人材の確保に当たっています。が、いまだに充足のめどが立っていない状況です。全国に目を向けると、4月の段階で欠員が常態化している県が少なからずあります。このような教員の配置状況で、安定した学校運営ができるかが最も大きな課題と捉えています。

今、産休育休を取る若手の先生も多いので、そのあと補充がなかなかないということ、副校長が相当数担任を経験しています。東京都の場合、今年度の小学校の採用選考の倍率は2.5倍です。教員は地元志向が強いので、地元で受ければ東京はキャンセルします。全国的に見ても一部を除いて同じような傾向にあります。

全連小としては、教員採用選考の改善に関していくつか提案をしています。現在多くの都道府県は、7月に1次、夏に面接、秋口に合格発表、3月に正式に配置となっています。民間は6月に3分の2以上の内定が出ています。民間がこれだけの内定を出している中で、まだ試験もしていない。どうやって戦うのだと言っています。大学3年生の遅くとも秋には選考を行い、民間が内定を出す6月には教員も内定を出してほしい。そして、今は3月半ば過ぎに配置校が決

まります。4月1日には担任です。このスケジュールでは学校も心配ですし、新採本人も不安です。6月に内定を出した段階で順次現場に配置して、経験を積ませて本人の適性を見たうえで、4月からの担任というスケジュールを組んでほしいと強く申しています。

臨時的に期限付きで受かった先生が、正式採用できるかわからないので民間に逃げます。年度途中で産休・育休に入ることがわかっていて教員のいる学校には、期限付き任用を4月から配置してほしい。それで育休に入る先生と一緒に4月から2人体制でやって、育休に入ったらスムーズにバトンタッチするような形にすれば、期限付きの先生も4月から仕事がありますから、教員として残ってくれるでしょう。

昔、日本育英会には、教員を10年経験したら返金しなくてよい奨学金がありました。あれを復活してほしいと、特に東京都には言っています。

また、高校に教職コースを作つて、そこから大学に入つて、奨学金で賄つて、都道府県に優秀な人材を配置していくというような抜本的な見直しをしてほしいと、強く国に話しているところです。

骨太の方針の中にも、教員不足への対応という文言が盛り込まれました。国や都道府県がしっかりやっていかないと、学校教育の屋台骨が崩れる状況にあるかなと思っています。

○藤崎武利事業委員長 なぜ教員になりたがらないのですか。◎大字（全連小）昭和の頃に比べて間違いなく小学校教員のイメージがよくなくなっています。残業時間が多い。保護者対応等がある。民間との給与を比較しても、教員のほうが低い。以前のような、先生が子供と共に輝いている、本当にやりがいのある良い仕事だという世間一般の

感覚がだいぶ薄れたのかなと感じています。

○藤崎（事業委員長） やりがいはあるはずですが。

◎大字（全連小） やりがいは間違いないです。

○藤崎 この数年間、コロナのことで困ったことはどんなことですか。

◎森山（国公幼） 密になって当たり前の子供たちの密を避けなければいけない点でした。保育をどう組み立てていくかが苦慮したところです。

◎大字（全連小） 業務量が膨大に増えたことです。例えば出席状況の仕分けでも、コロナで休むのか、疑いで休むのか、ほかの病気で休むのか、全部調べなければなりません。健康観察や消毒業務が膨大になったことは間違いない。

しかし、悪いことばかりではありません。ICTを活用して様々な取り組みにチャレンジできました。本校は、運動会をラ

イブユーチューブ配信したのですが、海外に出張している父親が「子供の運動会をライブで見られた」と言いました。また、

実家の祖父が九州で「孫の運動会が見られた」とか、今までならできなかったことにさまざまなチャレンジをすることができました。

◎竹ノ内（全日中） 制約に対する様々な対応で業務量は膨大になりました。

教育におけるパラダイムの転換、見方、考え方や捉え方が今

大きな課題になっています。これまでのような昭和型・平成型の学習スタイルから令和日本型学校教育といわれているように、教科書で教える、教科書を教えるというものから、主体的に学ぶにはどうしたらいいのかという大きな転換をICTを活用しながら進めていく必要が出てきます。個に応じた指導と協働的な学びを50分授業の中に効果的に入れながら、最終的には個に

戻して、個別最適な深い学びにつなげていくことが求められています。

今中学校では、ほとんどの学校がコミュニティースクール化されてきています。学校運営協議会制度が日本にも取り入れられ、学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組む、地域とともにある学校づくりを進めているところです。全日中として現場からの教育改革の視点に基づき要請を行っていく必要があります。

6月6日にスポーツ庁より運動部活動の地域移行が提言されました。令和5年度から3年間かけて、土日の部活動を地域に段階的に移行するということです。指導力のある部活動の教員は、兼業・兼職などの方向性を考えながら、部活動指導員として地域移行の中に入れ込むような形で進めていけないか全日中は考えています。

8月、10月、11月に小中合計

2400校程度、約6万人の教員を対象に勤務実態調査が行われます。その結果をもとに次の新たな改革の方向性が示されることを期待したい。中学校の場合、1週29コマの授業時数があり、24コマが標準時数です。1日につき50分しか空き時間がありません。そこに運営会議や生活指導部会があつたりして、ほとんど空き時間がない状況が続いています。標準時数の改善を



強く要望していききたい。

○藤崎 部活動に関して、今回地域移行のほうに進んでいっているようだが、やりがいを持ってやっている教員も大勢いると思うが。

◎竹ノ内(全日中) 文科省が部活動ガイドラインを打ち出して、各校でガイドラインを作るようにといわれてから5、6年たちました。月曜から金曜であれば4日まで。土日はどちらかまでとする。文科省のガイドラインを超えたもので各校が実施するようになってきました。今回の地域移行で土日が地域になった時、部活動を重視している教員も多いので、その教員にはきちんと報酬を与えて、兼業・兼職を認め、土日においても部活動に関わらせていく。教員と生徒の絆があるので、子供も部活動を命として授業を頑張る、その先生がいるので3年間頑張れたという例もたくさんあります。そのバランスは切らないでほしいと訴えていききたい。

○藤崎 日本では部活動は学校文化でもあります。それで成り立ってきたところもあるのです。課題ももちろんあるが。だから今、非常に大変だなと思います。

○田中 高校は持ち授業時数が少ない。持ち時数を減らすことを大いに打ち出したほうがよい。

◎竹ノ内(全日中) 今29コマありますので、2コマずつ空き時間をもえたら19時間になります。今、都の校長会は、公立中学校も都立高校並みの持ち時数にしてもらいたいということを都のレベルでは進めています。

○川井仁事務局長挨拶 現場の先生方は大変なのだということを改めて認識させていただきました。先生方のお話が分かりやすかったこともあり、多くの質問をいたしました。お忙しい中遅くまで会議に参加していただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

各地の会報紙より



広島県退職校長会

「会報」第143号

コマの回転残像を残す

山県支部 金田 道紀

現職を辞めて12年。来年の正月には6回目の干支(卯)を迎えて72歳になる。その間、学生時代の一時期を除いて、ほぼ自分の生まれた町で生活してきたので、町の栄枯盛衰を見つめて来た。もっとも「栄枯盛衰」は言葉の「あや」というもので、

実際には、坂道を下るがごとくの「衰退」を見つめてきた。

小学校の時、同級生だけで20人いた。今、地元小学生は全部で3人しかいない。

二軒に一軒が高齢者の一人暮らし、三軒に一軒は空き家になった。休耕田が広がり、店は遠くなった。人と顔を合わせれば、天候の話、カーブの話、遠くに

いる孫の話。あとは足が痛いだの腰が痛いだの、鳥獣被害の様子、誰それが先週入院したらしい。

正直、こうした晩年は考えていなかった。バラ色とはいかないにしても、もう少しは色のついたものを想定していた。

誰がどこで間違えたのか知らない。いや、もともと、正解とか間違いとかがあるのではなく、コマが回転しながら前後左右に揺れながら移動しているだけのこと、回転が止まった時が終わり、あきらめに近い感情を持つようになった。

そんなおり、今年度になって、「まちづくりセンター」で地元の歴史を語ってほしいと、月一回の連続講座を頼まれた。何人聞きに来てくれるかが心配だったが、「一人や二人でもいいじゃないですか、やりましょう」と若い担当者に励まされてお引き受けすることにした。さて当日。意外にも50人ばかりの人たちが集まってきた。そ

の後も毎回ほぼ満席になる。集まってくれるのは私と同世代の人たちがほとんどだが、中に一人、二人若い人も混じっているのは嬉しい。

地域が衰退していく中でも、それぞれの地には先祖代々受け継がれてきた長い文化や歴史が息づいている。

それを忘れること、消し去ることは過去と未来に対する冒とくのような気がする。集まってくれる人もおそらく同じ思いを共有してくれているのだろう。

コマの軌跡や停止は神の思召しとあきらめもするが、コマが揺れながら回転していた残像だけはどんな形であれ残していきたい。



愛知県退職校長会

「会報」第46号

恩返しをするはずが…

元一宮・末広小 大島 純子

退職する時、先輩方から、

「家族に恩返しをしてね。」と言われたし、私もそれを第一にと考えていた。

家族、とりわけ義母には家事に子育て、他にもずいぶん助けてもらった。義母は米寿を過ぎても、自分のことだけでなく、家族のために野菜を作ってくれたほど元気だった。そんな義母だったが、昨年の七月に二週間の、しかも初めての入院で、あつけない他界してしまった。

恩返しを何もできなかったことが悔やまれたが、まずは義母に代わって夏野菜の世話をしながら、野菜作りを継いでみようと思った。と言っても、一人で作ったことがなかったので、手伝った時の記憶と記録、近所の方の助言を頼りに、人参、白菜、大根、キャベツ、かぶ、ほうれん草など、種をまくところから始めた。ちゃんと育つか心配だったが、何とか収穫までたどり着いた時には、野菜作りの面白さに気づいていた。生長の楽しみ、収穫の楽しみ、食の楽しみ、

お裾分けの楽しみなどなど、楽しみが盛りだくさんだった。おまけに畑にいる私に、義母の知り合いが「ようやってちょうす（よくやってくれる）」と褒めてくださる。恩返しをするはずが…、私の生き生きライフになった。



義母の野菜作りを手本に

群馬県退職校長会

「群馬県退職校長会だより」

第84号

サッカーを通して

健康で楽しい人生を

吾妻支部 茂木 良一

私は大学でサッカーを始め、以後50年サッカーと関わってきた。

た。教員時代は部活の顧問として、また地域の少年サッカーの指導、更に社会人リーグ、シニアサッカーリーグでプレーをしてきた。今も70才以上のチームでサッカーを楽しんでいる。

現在、群馬県シニアサッカー連盟（40才以上）に加入しているチームは53チーム、1300人近い選手が登録している。シニアサッカーの人口は年々増加し、いつまでも元気でサッカーを楽しみたいという人が増えてきていることは大変喜ばしいことだ。

10年前、シニアサッカー連盟と協力して60才以上のチームのリーグ戦が3チームでスタートした。しかし選手が年を重ねるにしたがい、更に続けてプレーしたいという意欲が強くなり、5年前には65才以上のリーグ戦がスタートした。更に2年前には70才以上のリーグ戦も始まった。今は3チームあり80人くらいの人がサッカーを楽しんでいる。皆元気だ。我々のサッカー

の目標は、勝利を目指すことではなく、みんなで元気にサッカーを楽しむことだ。関東大会、全国大会にも参加することもあり、時には勝利の美酒を酌み交わしサッカー談義に花を咲かせたのも楽しみの一つだ。

サッカーには競技の特性として、攻撃と守備がめまぐるしく入れ替わる。ゲーム中はキック・ダッシュ・ターン・ジャンプ・身体接触もあり、体力の消耗も激しい。怪我なく楽しむためには、年齢を重ねるほど普段からのトレーニングが必要になってくる。そこで私はほとんど毎日1時間くらい近くの公園で走ったりボールを蹴ったりして試合に備えている。ゲーム中の攻守で頭を使い、体力を鍛え、私にとってサッカーは健康維持、更に健康長寿の向上へのかけがえのないスポーツだ。

サッカーが楽しめる環境は、与えられるものではなく、皆で創り出すものだと思う。サッカーを愛する仲間たちと協力しな

がら互いに認め合い、生涯スポーツとしてのサッカーが構築されれば更に健康増進の一助となるだろう。

いずれ群馬県においても80才以上の人がチームでサッカーを楽しむ姿が見られることを望んでいる。



茨城県退職校長会

「会報」第121号

ネジ捲きをしながら

つくば支部 中島 正志

おや？ 日付が1日遅れている。暦が小の月の翌月始め、日付修正を忘れていた腕時計。

最近、腕時計を新調しました。発売で動く昔ながらの機械時計で、身に付けず放って置くと2日間ぐらいで止まってしまします。当世の多機能な電波時計などに比べると秒も進むし、何とも手のかかる代物です。

でも、電池も要らず発条を捲きさえすればしつかり時を刻ん

でくれる。操作するのは人の手。まさにSDGsに叶うものと愛用しています。

退職して18年、時間管理にも制約が少なくなりました。だからこそ、「時計は止まっても時間は止まらない」の意識を持つて、時間の流れを自分なりに汲み上げます。好奇心の手を弛めずに、兀々と、毎朝のネジ捲きルーティーンを励行しています。



岐阜県退職校長会

「彩雲」第199号

コロナに思う

理事 森 社

第六波が襲う今年に入って、同居する息子がコロナに罹った。感染防止に気を付け出かけた数日間の東京出張から帰った後である。私も含めて家族が濃厚接触者となり、息子は自宅で隔離しつつ家族全員が缶詰生活を余儀なくされた。同じ屋根の下で家族感染を絶やすことの難しさ

と、外部とのかかわりを遮断して「衣食住」を継続することの大変さを実感した。特に「食」をどう維持するかは大きな課題で、ネットスーパーを利用して何とか乗り越えることができた。こんな生活の中で、間違いなく自宅の空气中に飛んでいたウイルス。地球を覆い尽くす驚異的な繁殖力・生命力はおどろおどろしい限りだ。そんなウイルスの発生から短期間で、世界の英知が新たなワクチンを開発し大きな効果をもたらした。人間の未知への探究心と創造力、卓越した能力に感服する。

コロナの襲来は、私たちの在り方生き方にも多くの示唆を与えてくれた。何よりも、健康に気を付けて生きること。力を合わせて乗り越えていかなければならないこと。そして、四十六億年もの歴史を背負っているこの地球で、人間も多様な生物・ウイルス・自然と共に生きていく存在であること。こんな私たちであることを謙虚に顧みて暮

らしていくことが大事だと改めて思う。



大分県退職校長会

「会報」第175号

ふるさと

別府市 芝尾 宏

「あなた、見かけん人だがどうも人かえ。」

二年前、地区の公民館長を断り切れずに引き受けました。公民館での最初の講座の日、地域の方から投げかけられた言葉でした。

私は、長年ふるさとに居ながらも勤務地は町外で、地域の方々との交流も少なく、ふるさは遠い存在でした。館長を引き受けたのも、これまで疎遠だった地域への償いの思いもありました。

ふるさは、今、どうでしょう。半世紀にわたって開催してきた『公民館まつり』のアンケートを行いました。

○ 後期高齢者多数のため、まつりの行事に対応できなくなりました。

○ 子ども会育成会員の減少で、三世代ふれあいの行事ができません。

少子・高齢化という言葉を目にして久しくなりますが、ふるさは、まさにこの渦中にあります。コロナ禍の中、様々な行事が開催できないこの機会に、『公民館まつり』の見直しを進めるため、まつりを見直す実行委員会を立ち上げました。

見直しの検討課題の中から、先ずは、まつりの名称と「うどん」や「おまんじゅう」などの出店のあり方について検討しました。

まつりの名称については、子どもたちも親しみ、ふるさとへの想いをつなげるように、『藤原ふるさとまつり』と名づけました。出店については、これまで各地区の輪番制で当たってきましたが、高齢化等が進む中、「やらされる」ではなく、「や

りたい」人を募るような出店に切り替えました。

実行委員会では、「一気に改善するのではなく、皆さんの意向を伺いながら少しずつ改善していけばよいのでは。」の声をいただきました。コロナの終息を願いながら、『藤原ふるさとまつり』の開催に向けて、ふるさとの皆さんと歩み始めているところです。



鳥取県退職校長会

「積雲」第100号

一日10人

鳥取 有本 健一

「これで今日は3人目、ぼちぼち帰ります。」と言いながら腰を上げる年配の近所のおばちゃん。一日10人が目標で健康維持とボケ防止だけではなさそうだ。10人の人と会って話すのは簡単ではない。我家の前の通りは、休日でも人を見かけないことが多い。

70軒ほどの自治会に関わるようになり6年目を迎える。現職時「忙しさ」に甘え、知らない

事ばかり。歴史を紐解くかのようにならから教えてもらうことの多い日々。自治会のことだけでなく近所の人のことも。防災や福祉に関する新しいこともあり暗中模索。やりがいや刺激はあるが、思った以上に苦労が多い。

祭・納涼祭・運動会に総事等々、老若男女が顔を合わせて一緒に活動することで、楽しさや絆を深め温かい支え合いを築くことが田舎の自治会の一の良さ・強み。しかし、この3年間はコロナにより大苦戦。ドライな近隣関係の方が気楽の声さえも聞こえる。リモート・ITなどは縁遠い、無関係。

伝統・伝承だけでなく、変わらないことを好む体質からの脱却は避けて通れないようだ。今日は何人に会えるかの楽しみと顔の見える関係を失わないように、役柄は何であれ地域とじっくり向き合っていきたい。

五反田だより（事務局）

通信機器の発展の影響で企業や学校教育活動では、一堂に集まらなくても通信機器を活用して活動できるように機器が整備されている。

本部では、通信機器が整備されていないため、コロナ禍の中、諸会議や各都道府県退職校長会との連絡、情報交換が十分でない状況にある。

特に、この3年間文部科学省の予算概要の説明がオンラインで実施されたため、直接要望意見を述べる事が出来なかった。今年度の予算案作成に当たり、早急に通信機器の整備の必要を説明し、整備費を承認して頂いた。機器整備に合わせて、講師を招きインターネットの活用方法について研修している。

文部科学省では、子供たちの可能性を引き出す、個別最適な

学びと協働的な学びを実現するため、児童生徒の「一人一台端末」等のICT環境の整備を進めている。全連退の活動目標である学校支援に貢献するためにも情報機器の有効活用ができるように整備する必要がある。

コロナ禍の影響により各地区の退職校長会、8地区の連絡協議会が中止されてきたが、会員の親睦や絆を充実させるためには、仲間との交流や情報交換を絶やしてはいけない。

現在、各自自治体においては学校運営協議会制度が設立され地域と連携した活動が展開されている。学校の情報通信機器を活用し地域住民との会議が実施されている。地元の学校施設を有効に活用した実践活動である。退職校長が地域の一員として、知識や経験を活かし、この活動に参画され活躍されることを期待する。

(TA)

本部活動報告

◇7月

- 1 第2回常任理事会
- 6 部長会
- 15 部長会

◇8月

- 2 文部科学省、総務省へ要望書提出（厚生労働省へは事前に郵送）
- 10 部長会
- 22 文部科学省初中局長との教育懇談会

- 10 部長会
- 22 文部科学省初中局長との教育懇談会
- 23 教育課題委員会
- 27 部長会

- 29 生涯福祉部会・広報部会事業委員会
- 30 生涯福祉部会・広報部会

◇9月

- 5 広報部会
- 9 部長会
- 12 広報部会
- 15 教育振興部会
- 20 教育課題委員会

編集後記

○記録的な猛暑の日が続く中、第7波のコロナ感染もあり、過酷な今年の夏でしたが、皆様にはいかがお過ごしだったでしょうか。

○3年振りに文部科学省への対面による要望書提出が叶いました。しかも伯井美徳初等中等教育局長が対応してくださいました。

○各都道府県の退職校長会でも、一堂に会しての総会等が開催されたところが増えているようです。この傾向が進むことを願っています。

全連退会報（225号）

発行 令和四年九月三十日
発行所 東京都品川区東五反田

五二一三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八

Email: info@zententai.org

振替口座 〇〇一九〇九四七二〇

○責任者 入子 祐三

印刷 株式会社 信行社

電話 〇三三四三三三六二二